

### 高齢者高血圧患者における年間を通じたパーフェクト24時間血圧コントロールの実現可能性：南三陸研究

西澤 匡史

南三陸病院/自治医科大学 循環器内科

**【目的】** 実臨床での高血圧コントロール率は不良で、「治療イナーシャ」が一因とされる。高齢者高血圧患者では、血圧コントロール不良が多く、その問題に積極的に対処することで、年間を通じたパーフェクト24時間血圧コントロールが達成可能かどうか検証した。

**【方法】** 当院では、血圧管理のために年に2回(夏季、冬季)24時間自由行動下血圧計(ABPM)を施行している。降圧薬治療中で連続した2回のABPMのデータがあり、その間降圧薬の変更を行っていない129名(平均年齢  $82.4 \pm 6.5$  歳、男性 31%)について血圧コントロール状況を後ろ向きに検討した。

**【成績】** 平均降圧薬種類数は2.5であり、3剤以上の降圧薬を処方している割合は46.5%(60/129)であり、そのうち降圧利尿薬の使用は、93.3% (56/60)であった。夏季、冬季の平均24時間血圧値は、それぞれ  $112.5 \pm 10.1$  mmHg、 $115.2 \pm 9.7$  mmHgであった。血圧コントロール率については、夏季において24時間血圧(130/80 mmHg未満)、日中血圧(135/85 mmHg未満)、夜間血圧(120/70 mmHg未満)で、それぞれ93.0%、92.3%、85.3%であった。冬季においては、それぞれ90.7%、89.2%、77.5%であった。

**【結論】** 高齢者高血圧患者においても、「治療イナーシャ」に積極的に対処することで、年間を通じたパーフェクト24時間血圧コントロールは、ほぼ達成可能である。降圧利尿薬の積極的な使用は大きな要因だが、夜間血圧コントロールについては、まだ課題が残る。